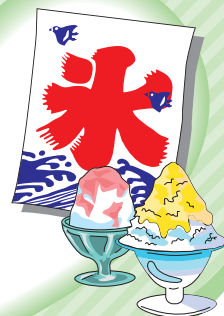




ふるかわ内科 クリニック通信

2014年
夏号
第14号



院長より

皆さんは、病診連携という言葉を知っていますか？病診連携の「病」は病院、「診」は診療所の意味です。つまり病診連携とは病院と診療所がそれぞれの役割、機能を分担し、患者さんのためにお互いに連携しながら、より効率的・効果的な医療を提供することです。わが国では現在、医療機関の機能分担が進められていて、病診連携は国のめざす方策でもあります。

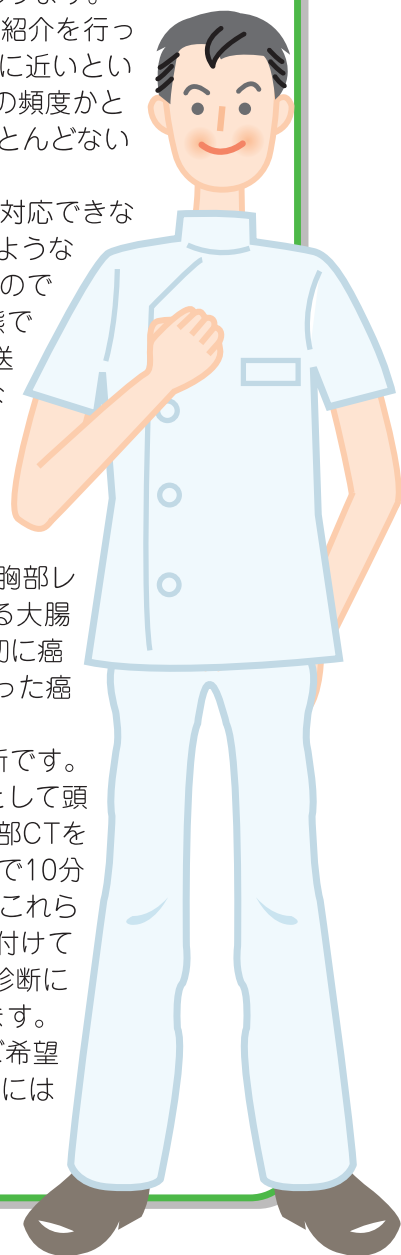
当院でも積極的な病診連携を行っており、必要な場合は速やかに専門施設に紹介を行っています。様々な病院と連携を行っておりますが、当院は八尾市立病院に非常に近いということもあり、市立病院との連携頻度が特に多い現状があります。どれぐらいの頻度かといいますとこちらから紹介をしたり、紹介を受けたりということがない日はほとんどないくらいです。

具体的に、どんな連携があるかご紹介しましょう。まずは、当院ではとても対応できない緊急性のある、入院が必要な場合があります。心筋梗塞やくも膜下出血が疑われるような場合、あるいは、高齢者の肺炎などです。病院に比べれば軽症患者さんが多いのですがそれでも時々、「えっ、歩いてこられたんですか！救急車を呼ぶべき状態ですよ！」というようなシーンが年に何度かはあります。実際、大きい病院へ搬送してもらうため救急車を呼んだこともありますし、それほど重篤ではない方なら、院内の車いすを使ってスタッフが市立病院まで押していくということも度々ありました。（ちなみにこのような方が来られると、待ち時間はぐっと伸びてしまいます。ご容赦を！）

緊急性はないものの専門科での対応が必要という場合も紹介となります。開院以来たくさんの癌が見つかり、その度に適切な医療機関を紹介しています。胸部レントゲンで見つかる肺癌、胃カメラにて見つかる胃癌、便潜血健診で見つかる大腸癌、PSA健診にてみつかる前立腺癌等々。日本人の死因のトップは癌です。適切に癌を見つけるのはわれわれかかりつけ医の大切な任務のひとつです。一方見つかった癌の治療は当院ではほとんどできないというのが現状です。

その他に紹介することが多いのはなんといってもCTやMRIといった画像診断です。原因不明の腹痛を検査するため腹部CTを撮る、これまでにないめまいの検査として頭部MRIを撮る、胸部レントゲンで見つかった異常な影を詳しく調べるために胸部CTを撮るといったことは日常茶飯事です。必要となれば即FAXで予約をとりますので10分か20分くらいで予約票が届きます（市立病院の場合）。また、八尾市立病院でこれらの画像を撮った場合、読影を専門とする放射線科の先生が、画像をみて所見を付けてくれますので、非常に参考になります。私だけでなく、放射線科のドクターも診断に参加してくれているという状況になるわけで私としても非常に心強く感じています。

今回は最寄りの八尾市立病院との連携を中心に書きましたが、患者さんのご希望や病状に応じて成人病センター、大阪赤十字病院、大学附属病院等々、基本的にはどこの病院へも紹介状を作成できますのでご相談ください。



内科、糖尿病・消化器内科

ふるかわ内科クリニック

糖尿病学会専門医・指導医 消化器病学会専門医 総合内科専門医

大阪府八尾市跡部北の町3-1-26 久宝寺クリニックビル1F

☎072-943-3307 FAX072-943-3308

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前9時～午後12時30分	○	○	△	○	○	○
午後4時～午後6時	○	○	△	○	○	△

休診：水曜日・日曜日・祝日・土曜日午後
経鼻内視鏡あります

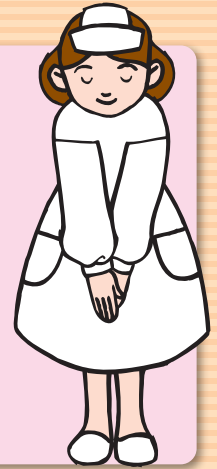
ホームページ [ふるかわ内科クリニック](#) [検索](#)

連絡事項

8月の休診のお知らせ

8/12から8/18 まで休診となります。

ご迷惑をおかけいたします。休診中の急病につきましては八尾市立病院や、休日診療所等をご利用ください。



糖尿病コラム

糖尿病の新薬が発売になりました

糖尿病の新治療薬である「SGLT2阻害薬」が登場し当院でも使用を始めています。この薬は体重減少効果があるということで大変注目されておりますので新聞やテレビを通じてご存知の方もいるかもしれません。この薬は簡単に説明しますと、「体内に入った糖分を尿糖として体外に出す」という方法で血糖値を下げます。これまでにあった「インスリンを分泌させる」とか「インスリンの効きをよくする」といった薬とは全く違う方法で血糖値を下げるわけです。食事摂取した炭水化物の一部が尿糖として体外に出るのでカロリーを制限したような形になるわけです。副作用としては、尿糖が増えることによって尿量が増えることや、それに伴い脱水症に注意が必要なこと、尿路感染や性器感染に注意が必要なことなどがあります。この薬の特性からすると、比較的年齢の若い肥満の方に使いやすい薬といえそうです。

